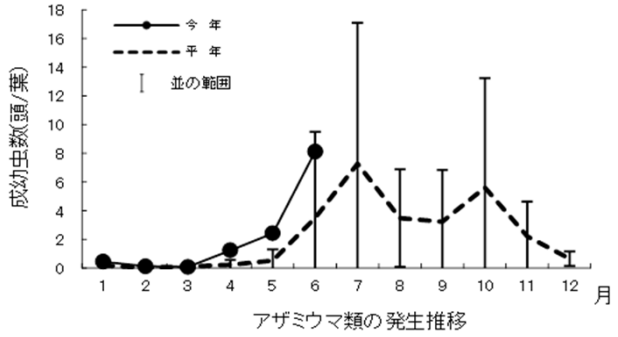
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
6 月の発生量（現況）	ややや多		
7 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、６月より発生量は増加すると考えられる。		

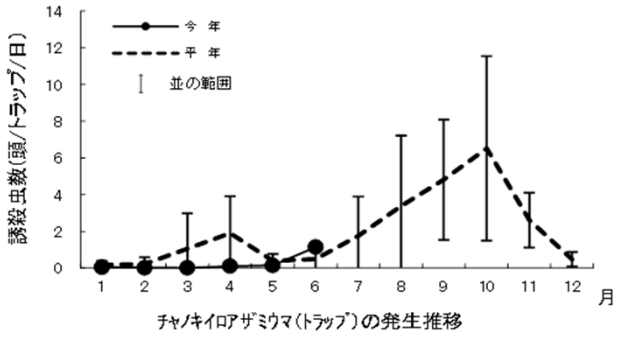
発生量の根拠（調査結果）

（見取り調査）



アザミウマ類の発生推移

（トラップ調査）



チャノキイロアザミウマ(トラップ)の発生推移

・ 防除員による報告：多発生（本島北部）・少発生（本島南部）

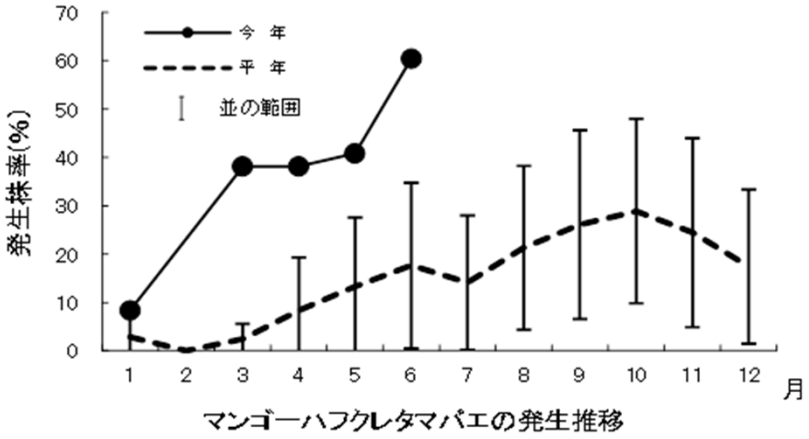
防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
6 月の発生量（現況）	多		
7 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移から、６月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

・　防除員による報告：多発生（本島北部）

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

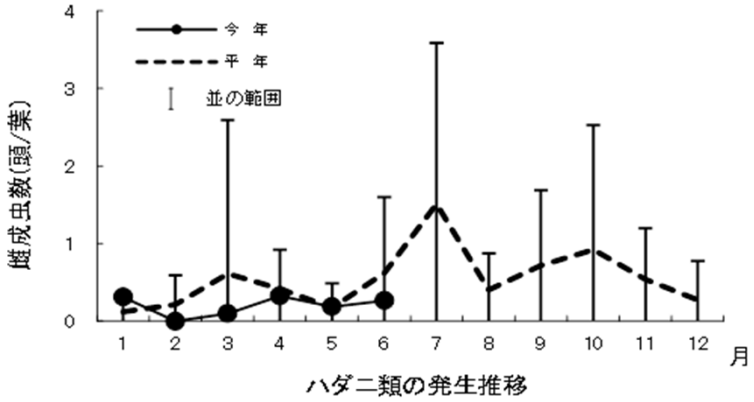
・翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
6 月の発生量（現況）	並		
7 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、６月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

（成葉における調査結果）



ハダニ類の発生推移

・ 新梢あたりの寄生雌成虫数は 0.1頭以下だった。
・ 発生種はシュレイツメハダニであった。

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状